

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ちがいをかんがえよう」 教材名「子どもをまもるどうぶつたち」

2 単元の目標

同じ観点で守り方を比べ、共通することと違うこととの関係を理解できる。守り方を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達と共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①同じ観点で守り方を比べ、共通することと違うこととの関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、守り方を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達と共有している。（C(1)ウ・C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

動物が子どもを守る方法を、同じ観点で比べて読む。誰がどのように守るかを説明する大事な言葉を選び、教科書で読んだことと図鑑で調べたことを区別して紹介する。学習指導要領のC(1)ウ・C(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

動物名と守る方法を対応させ、比べる観点を先に決める。図鑑では見出しや説明を教師と確かめ、写真だけから守り方を推測して断定しない。おおむね満足できる状況は、守り方を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、子どもを守る動物について知りたいことを出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○動物ごとの守り方を確かめ、大事な言葉を探す。	知①（語句や内容の整理）
	5 （本 時）	○同じ観点をそろえて守り方の違いを説明する。	思①（発言・学習記録）
	6～7	○図鑑や科学の本で関心をもった動物を調べ、出典を記録する。	学習状況を見て支援する。
	8～9	○比べ読みカードを書き、教科書と図鑑で確かめたことを分けて紹介する。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○同じところと違うところを比べた読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導（5／10）

（１）本時の目標

守り方を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達と共有できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「子どもを守る方法には、どんな同じところと違うところがありますか。どの言葉から確かめましたか」 【めあて】動物が子どもを守る方法を、同じ観点で比べて読む。 〈予想される児童の反応〉 ・守る場所をそろえると違いが分かる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「子どもを守る方法には、どんな同じところと違うところがありますか。どの言葉から確かめましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・守る場所をそろえると違いが分かる。 ・守り方の説明を入れないと名前だけの紹介になる。 ・別の本で読んだことは、本の名前も知らせたい。	動物名と守る方法を対応させ、比べる観点を先に決める。図鑑では見出しや説明を教師と確かめ、写真だけから守り方を推測して断定しない。 想定する難しさ：動物の赤ちゃんのかわいさだけに注目する。異なる観点を混ぜて比較する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 守り方を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達と共有している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・別の本で読んだことは、本の名前も知らせたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「子どもを守る方法には、どんな同じところと違うところがありますか。どの言葉から確かめましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

